

14期ミュージアムへ行こう 5

第3回テーマ 嵐山のミュージアムへ行こう（福田美術館、嵯峨嵐山文華館）

事前学習

1. 講座日時：2026年6月25日（木）10時～12時
2. 講座場所：豊中市くらしかん 3階
3. 講師：福田美術館・嵯峨嵐山文華館副館長 竹本理子先生
4. 概要：福田美術館の紹介、企画展「若冲到トリハダ！ 野菜もウリ！」の見どころ
嵯峨嵐山文華館の企画展「それいけ！ 応挙塾～丸山応挙とその弟子たち～」など

5. 講座の内容

① 福田美術館の紹介

2019年10月にオープン（安田幸一設計）

嵐山の風景を一体化させた庭園、町家の厳しい決まりを受け継ぐ、「蔵」がコンセプト
モダンな素材（ガラス・大理石）＋伝統の意匠（網代・市松）

世界最高峰の透明度を誇る大反射ガラス

江戸時代から現代までに及ぶ約2,000点のコレクション。99%が日本画

② 企画展「若冲到トリハダ！ 野菜もウリ！」の見どころ紹介

（1）ギャラリー1

初公開の若冲作品10点を含む レア物多数

（2）ギャラリー2

修復後の「果蔬図巻」と重要文化財「菜蟲譜」 初の同時公開

若冲の精神的支柱でありパトロンでもあった大典との合作「乗興舟」も展示

（3）ギャラリー3

若冲と同時代の画家たちの作品

与謝蕪村、池大雅、蘇我蕭白、円山応挙、長沢芦雪、源琦

③ 嵯峨嵐山文華館の紹介

2006年1月 百人一首殿堂「時雨殿」＋百人一首歌碑苑オープン

2018年11月 嵯峨嵐山文華館と改名し、リニューアルオープン

常設展「百人一首ヒストリー」

企画展「それいけ！ 応挙塾 ～円山応挙とその弟子たち～」

18世紀末の京都で最も人気があり、日本画に革命をもたらした円山応挙とその
一門の作品

鑑賞会

日時 2026年7月2日(木) 10時30分～14時30分(大雨のため、集合時間を10時半に変更)

集合場所 阪急嵐山駅 改札前

福田美術館 阪急嵐山駅から渡月橋を渡り、左折。大堰川沿いに歩いてすぐにある。



福田美術館 玄関



館内のカフェから見た渡月橋



庭の現代アート(奈良義智の少女像)

主な展示作品：美術館のほとんどの作品は撮影可能でした。事前学習で学んだ作品数点を掲載します。

① ギャラリー1：初公開の10点を含む、若冲の作品



《蕪に双鶏図》(若冲30代前半)
現存する若冲最初期の作品



《双鶴図》(若冲58歳)初公開
右下に「革叟」の署名(若冲の別名)



《花卉雄鶏》
細やか！鮮やか！（キャプションより）



《布袋図》
右上の文字は弟・白歳の字



《雲龍図》
龍を真上から捉えた構図



《芦葉達磨図》
「筋目描き」の髪が美しい

- ② ギャラリー2：1790年以前のほぼ同時代（若冲76，77歳）に描かれた絵巻物、
 2023年にベルギーで発見された《果蔬図巻》（約2.8m）と、1999年に発見された
 重要文化財《菜蟲譜》（約11m）
 若冲の精神的支柱でありパトロンでもあった、相国寺の僧大典との合作《乗興舟》



《果蔬図巻》果物・野菜のみ



《果蔬図巻》の図解



《果蔬図巻》の一部



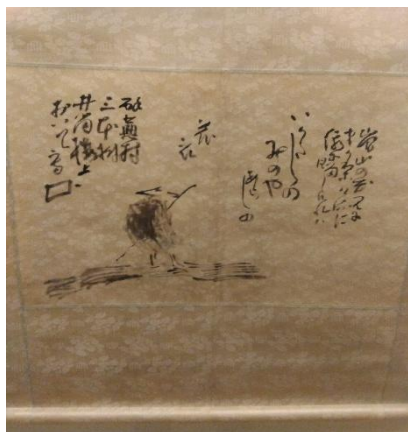
《菜蟲譜》（野菜の他に昆虫や小動物もいる） 長さ約11mにも及ぶ



《乗興舟》

（京都から大坂まで、淀川を2人で舟で
 下った旅の版画です）

- ③ ギャラリー3：若冲と同時代の画家たち、与謝蕪村、池大雅、曾我蕭白、丸山応挙、長沢芦雪、源琦の
 の作品介绍



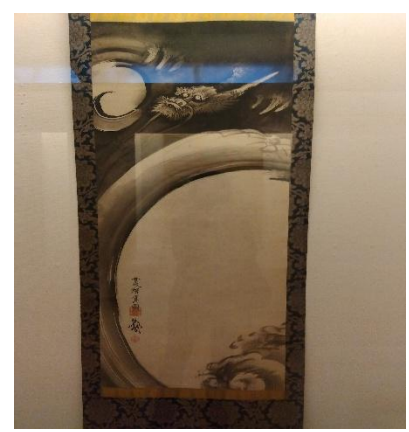
《いかだし》与謝蕪村

いかだしの みのや あらしの 花衣



《墨蘭図》池大雅

若冲と梅見に行きました
 （キャプションより）



《雲龍図》曾我蕭白

若冲とはまた違った構図の妙
 （キャプションより）



《丸山応挙》海辺群鶴図 (1784)
 応挙の才に騙される
 (キャプションより)



《大黒天図》長沢芦雪
 二股大根は大黒様へのお供えの定番
 (キャプションより)



《朝妻舟》源琦
 応挙流に描く謎めいた美女
 (キャプションより)

嵯峨嵐山文華館 福田美術館を出て西に歩いて2, 3分のところにある。

常設展「百人一首ヒストリー」



このような可愛いフィギュアが百体並ぶ



企画展：「それいけ！ 応挙塾～円山応挙とその弟子たち」18世紀末の京都で最も人気があり、日本画に革命をもたらした円山応挙とその弟子たちの作品を紹介



《陶淵明図屏風》円山応挙
 金地に映える鮮やかな瑠璃色
 (キャプションより)



《花鳥図屏風》岸駒 (がんく)
 京都画壇を席卷した岸派の祖
 (キャプションより)



《猫と仔犬》長沢芦雪
 芦雪の動物もかわいい
 (キャプションより)

編集後記

オープンして10年ほどの美しい福田美術館と、競技かるた大会会場ともなる120畳の広間を有した嵯峨嵐山文華館は、嵐山渡月橋がかかる大堰川沿いという、京都でも屈指の名所に静かに佇んでいるという印象でした。

2つの美術館の副館長を務められる竹本理子氏のパワフルで魅力的な講義では、作品紹介はもちろんのこと、館内写真撮影ほとんどOK、音声ガイド無料、「しゃべっていいDay」もあり、簡単でインパクトの強いキャプションの工夫など、従来の美術館のやや高い敷居を取り払う努力を惜しまない姿勢を存分に感じながら鑑賞できた一日でした。

もう1つおまけは、福田美術館内のカフェ！ 来館者のみ入れるカフェで絶景を愛でながら、絶品のパニーニとエスプレッソをゆっくりいただけるという最高の贅沢も味わいました。 (3班 広報担当)